

# 3サンハイツせけんばな紙

第 19 号 令和5年6月1日

編集責任者  
田島康弘(3-101)  
作成責任者  
渡邊芳憲(9-503)  
編集委員  
小松清明(10-501)

## 団地内の野草

田島康弘(3-101)



花部拡大  
右の写真では花  
の様子が  
わかりづらかつ  
たので  
花だけを別に  
撮り直しました



キキョウソウ(桔梗草)  
桔梗よりずっと小さいですが、桔梗に似  
た花を咲かせるのでこの名があります。高  
さ20〜30センチで1本立ちしていることが  
多く、段々に小さな花を咲かせるのでダン  
ダンギキョウ(段々桔梗)の別名もありま  
す。北米原産で花期は5〜7月、今、団地内  
を歩けば道端など至る所で見られます。花  
言葉は「優しい愛」「人当たりがいい」で  
す。以前本紙12号(2022年11月)で紹介  
したヒナギキョウも桔梗に似た小さな花を  
咲かせますが、1本立ちせず、低く横に伸  
びるので姿が全く異なります。

## 6月行事予定

天候などの状況によっては、中止・延期などもあり得ますので、事前に確認をお願いします

- 9日(土) ・火災予防運動の日(毎月9日)
- 10日(土) ・地域食堂「鴨カムお結び」  
時間: 12:00~13:30(提供完了次第終了)  
場所: 鴨池校区公民館前(松林内、雨天時は公民館内)  
料金: 18歳以上/300円、18歳未満/200円、未就学児/無料
- 13日(火) ・第2回ダレデューモマナヴェール(成人学級)  
「災害に備えよう!」  
講師: 鹿児島市危機管理課職員 場 所: 真砂福祉館2F和室  
時間: 19:00~ 参加費: 1,000円(懇親会費)
- 14日(水) ・スマートフォン相談会  
時 間: 10:00~12:00 場 所: 鴨池校区公民館  
要予約: 直前の月曜日(12日)まで
- 25日(日) ・第2回プティエコール(女性学級)  
「女性の心と身体の変化について」  
講師: 今村総合病院産婦人科 貴島佳子先生  
時間: 9:00~10:00 場 所: 鴨池校区公民館  
定員: 30名 申込期限: 6月22日(木)
- 28日(水) ・スマートフォン相談会  
時 間: 10:00~12:00 場 所: 鴨池校区公民館  
要予約: 直前の月曜日(26日)まで

鹿児島ユナイテッドFC  
ホームゲーム  
10日(土)19:00~  
ヴァンラーレ八戸  
24日(土)19:00~  
ガイナレ鳥取

### 7月

- 1日(土) ・第1回腎臓病教室  
「CKDについて知ろう!」 ※CKD:慢性腎臓病  
講 師: 今村総合病院腎臓病療養指導師、慢性腎臓病療養指導看護師  
時 間: 9:00~10:00 場 所: 今村総合病院C棟8階透析患者ラウンジ  
定 員: 15名(先着順)  
申込方法: 今村総合病院に電話(代表☎099-251-2221)し、透析センターに繋いでもらう  
申込時間: 14:00~16:00

※お問合せ・お申込み  
鴨池校区コミュニティ協議会事務局 ☎099-285-1522(月・水・金 9:00~12:00 祝日休み)

# 鳴池校区内の公共施設・公共機関―鹿児島市水道局Ⅰ

渡邊芳憲（9,503）

## ■はじめに

今回は、「鹿児島市水道局」（以下「水道局」と略記）をお送りします。

水道局は、県庁舎の敷地の向かい側県議会棟の前の大通りの北側にあります。ここには、東から、鹿児島県社会福祉センター、青少年会館、水道局、（株）九州電工鹿児島営業所と並んでいます。

住居表示で言うと、鳴池新町1番10号となります。

水道局は、47年前の昭和51年6月、松原町から、現在地に移転してきたそうです。

調べていくと、「鹿児島市民の生活の基礎にある水を如何に確保していくか。しかも安全で、安心できる水を如何にして提供していくか」ということに、全力を傾けておられると言うことをビシビシ感じました。しかも、水道局は、上水道だけでなく、下水道についても責任がある職場であります。私たちが当たり前と思っている、市民の快適な生活を支えている仕事について、少しでも皆様に伝えられたらと、初めは、1回の予定でしたが、急遽、複数回に分けて掲載することにしました。よろしくお願ひします。

取材には、水道局総務課の中島主査にご協力いただきました。アポなしの取材にも関わらず、丁寧に対応いただきありがとうございます。

また、記事を書くに当たりましては、水道局発行の各種刊行物、とりわけ「水道・公共下水道・工業水道事業年報（令和4年版）」を参考にさせていただきました。

今号では、先に挙げました、水源の確保について、それがうかがえるものとして、水道事業の歴史について述べることにしました。

## ■鹿児島市の水道事業の歴史

### ◎近世（江戸時代）

鹿児島市の水道事業は、享保8年（西暦1723年）島津家22代当主、第5代藩主であった島津継豊が、耐圧石管を用いて、冷水町の湧水（現在の冷水水源地を水源とする延長1345メートルの水路を作り、鶴丸城内及び城下の一部に給水したことが始まりとされています。

この水路は、その後何回か改修され、明治維新・廃藩置県後は鹿児島県の管理とされてきましたが、明治22年（1889年）市制が施行され、鹿児島市ができたとき、鹿児島市に移管されました。

### ◎近代（明治以降〜太平洋戦争中）

明治39年（1906年）には、冷水水源地の改修と水路工事を行ない、城山配水池（城山町）の築造を完成させましたが、依然として、市勢の発展と人口増加による水需要の増大には対応しきれいていませんでした。その後も、新水源の確保に努めましたが、水質・水量が適切でなかつたりして、中断されていました。

その後、七窪水源（下田町）の買収交渉がうまくいき、明治45年（1912年）に買収し、翌年（大正2年）市議会で調査費の支出も可決されました。

大正4年（1915年）上之原配水池（西坂元町）予定地で起工式が、大正8年（1919年）11月26日上之原配水池で通水式が行なわれました。これが、鹿児島市の近代水道の始まりとなりました。

この工事は、七窪水源地から直線距離で3キロ強先にある上之原配水池まで送水管を敷設する工事で、第1次世界大戦（1914〜18年）による物価高騰や、難工事となったトンネル工事で、苦しめられたものとなりました。

この後も、隣村合併が進み、給水人口が増加し、水不足になり始めたため、昭和7年（1932年）に滝之神水源地（坂元町飛び地）の築造に着手し、昭和14年（1939年）に、鳥越配水池（稲荷町）も完成しました。

七窪水源地、滝之神水源地は、今も続く2大水源地となっています。

### ◎太平洋戦争後（地下水取水の時期）

第2次世界大戦（太平洋戦争）での鹿児島市への空襲（これについては、本紙第7号で述べました）で、水道事業を含めた都市機能は壊滅的な状態に陥りましたが、戦後の復興事業により、着実に復旧していきました。その中で、郡元・鳴池地区では住宅・工場が急増していき、そのせいで、配水量の不足や水圧低下が発生し

ました。

そこで、昭和23年（1948年）に旧海軍の施設であった郡元水源地（郡元1丁目）を買収・改良し、併せて同じく旧海軍の配水施設を利用して郡元・鳴池地区への給水を始めました。

そのほか、昭和24年（1949年）には、高台にある吉野地区の給水施設を整備するため、吉野水道組合の水源地施設を買収し、改良して、吉野地区の給水を万全なものにしました。

### ◎表流水の活用開始

その後も、市勢は発展を続け、工場、住宅が建設されていきました。そして、それまで地下水だけから取水していた水道事業を甲突川の表流水を水源とすることにして、河頭浄水場（犬迫町）を建設し、昭和40年（1965年）4月から給水を始めました。

昭和40年代後半に、将来予想を見据え、万之瀬川からの導水について関係市町に協力要請を行ないました。理解を得られず頓挫しました。

しかし、バブル崩壊後も、鹿児島市への人口の一極集中や臨海部の発展は止まらず、滝之神浄水場（吉野町―稲荷川表流水）を昭和52年（1977年）に完成させたほか、浄水場の処理能力を高めました。また、市内の水源地だけでは限界があり、いよいよ、鹿児島市外から導水する以外に、方法がない状況に追い込まれ、さらに、昭和53年、54年（1978、79年）には、降水量が全く少なく、濁水に見舞われ、市民への節水の呼びかけがされるまでになりました。

### ◎市外からの導水〜現在

そこで、再度、万之瀬川流域水利用対策協議会に協力要請を行ない、昭和56年（1981年）県、市、協議会との間で協定が調印され、地元関係者からも同意が得られました。そして、導水部門（取水場から浄水場までの導水管及びそれが通るトンネル部分の建設工事）を鹿児島開発事業団が担当し、浄水場（平川浄水場―平川町）は鹿児島市が建設することになりました。平川浄水場は平成元年（1989年）7月から運転を開始しました。

さらに、平成5年（1993年）のいわゆる86水害を踏まえて、複数ルートでの給水体制の確保などの災害対策も強化されました。